

女性自衛官からアグリビジネスに転身  
直売所へ野菜を出荷し

地域活性化に取り組む若者夫婦  
農業の魅力と2人が目指すものとは…  
自然を相手に野菜を育てる楽しみと喜び  
さあ、あなたも野菜出荷で直売所を盛り上げよう！



農

# に 飛込む

若者が挑戦したアグリビジネス

産者に出会える楽しみも魅力のひとつだ。

一方、価格についてもスーパーなどよりも低価格で販売されている商品もあり、野菜価格が高騰している現在、直売所の生産者が設定する価格も好評だ。しかしながら、直売所出荷者の高齢化や後継者不足が深刻化しており、出荷量も年々減少傾向にあるのも事実だ。そのような中で農業未経験の若者が就農し、直売所出荷に汗を流している。

近年、メディアなどから幅広く注目を集める「農業女子」。私たちが暮らす、この弘前市においても今どきの女性が夢を持って毎日のように畑へ向かっている。今回は、高校時代に農業の楽しさを学び、農業の世界に飛び込んだ若手女性就農者に迫りたいと思う。皆さんと「農業」というアグリビジネスの楽しさを共有し、一人でも多くの人が「農業」に魅力を感じて頂けたら幸いです。

それでは、早速「るなファーム」の世界へ飛び込んでみよう。



## 夢を追いかけて

夢。それは自然溢れるこの大地で農業という最高の輝きを柱に地域活性化を図ること。そう話すのは、元女性自衛官で昨年の春に新

規就農を果たした三上瑠菜さんだ。旦那の勇人さんは現役の陸上自衛官で勇敢な若者だ。休日のほとんどを妻の瑠菜さん



三上さん夫婦が作る色とりどりの野菜が私たちを幸せにしてくれる



# 直売所出荷で一躍を担う今どきの**農業女子**!

と農業に没頭している。

結婚を機に就農した瑠菜さんは、美味しい野菜づくりを目指して「るなファーム」を設立。高品質な野菜づくりで農業女子として地元を盛り上げることに一躍を担っている。しかしながら、都会でアグレッシブに働く若者とは真逆の道へ走る理由はどこにあるのだろうか。そんな思いを胸に、農業という道を歩み始めた理由を聞くことにした。

瑠菜さんは、高校時代に青森県立弘前実業高等学校農業経営科で3年間農業の基礎を学び、農業の楽しさを存分に味わった一人だ。そして、いつしか大自然の中で農業をしてみたいと思うようになったと教えてくれた。そして、就農した理由は農業の楽しさを満喫したいという思い以外に、もうひとつあるようだ。それは、母の長年の夢である民宿の経営だ。美味しい野菜をつくり、いつか母の夢を実現させて一人でも多くの人に「るなファーム」の野菜を提供したいと瑠菜さんは話す。現在は直売所を中心に出荷しているものの、将来は民宿を立ち上げ、直売

所出荷を継続しながら地産地消に取組みたいと胸の内を明かしてくれた。一人でも多くの人に自身が作った野菜を提供したいという思いが伝わってきたのは言うまでもないが。

なにより今は、夢に向かって農業一筋で生活していけるように頑張り、様々な知識を身に付けて高品質な野菜づくりに専念したいと教えてくれた。また、夢を追いかけるとともに、子どもから大人まで幅広い年齢層に収穫体験や料理教室を開催し、地域活性化を図ることにも力を入れたいと意気込んだ。

## 強い決心と夫婦愛

前段でも話した通り、瑠菜さんは高校時代に農業の楽しさを学び現在に至る。一方、スポーツ万能な勇人さんは、農業を始めた当初、



愛車はFJクルーザー



農業の魅力を理解できず、嫌いだっ  
たと振り返る。そんな気持ちをよ  
そに、瑠菜さんは勇人さんが長期  
の出張中に就農を決意し、勇人さ  
んが半年近い出張から帰ってくる  
と、「るなファーム」が目の前に広  
がっていた。オクラやキュウリ、  
ナスなど夏野菜を作って農業に没  
頭していた瑠菜さんがそこにいた  
と当時を振り返る。「きつと勇人  
なら付いてきてくれると信じてい  
た」と、姉さん女房の瑠菜さんは  
笑顔を見せた。

農業経営をしていく自信が全く  
感じられなかった勇人さんだが、  
いつしかその心は一変していたよ  
うだ。そのきっかけとなったのは、  
自分たちが一生懸命に作った野菜  
が消費者に売れた瞬間だった。出  
荷するまでは、自分たちの野菜が  
いくらで売れるのか楽しみでなら  
なかったという。価格だけではな  
く、消費者に評価してもらえると喜  
びと出荷に向けて高品質生産に取  
組む熱意で溢れかえった厚みが今  
でも深く心に残っているそうだ。  
収穫する喜びや、野菜がプライス  
として提示されることのドキドキ  
感がたまらないと話す。多くの人



ご主人の三上勇人さん(26)

に支えられながら今日も二人は農  
業の道を歩む。

## 日常の変化

就農以来、生活スタイルが  
180度変わり、女性自衛官とし  
て国を守ることから農地を守る立  
場へと変わった瑠菜さん。瑠菜さん  
の一日は、朝採りの新鮮野菜を直



夫婦仲良く協力しながら出荷作  
業に汗を流す

売所へ出荷することから始まる。  
繁忙期は勇人さんも朝早くからト  
ラクターに乗り込み、肥料を蒔い  
たり耕して畑を手伝い、農業の楽  
しさを実感しながら充実した日々  
を送っている。

就農1年目は、土づくりや病害  
虫防除などの知識を深めることの  
大切さを実感。安心安全な農産物  
の育成は、いつの日も変わらぬ農  
業の重要な部分である。やはり、  
高品質生産を胸に苦勞して作る野  
菜は収穫時期が非常に楽しみで、  
収穫時に会おう自分たちが作った  
野菜は格別なようだ。収穫時の喜  
び、そして、消費者が喜んでくれ  
たときの笑顔が私たち生産者を

もつとやる気になってくれると話す。  
心の底から湧き上がる喜びは、作っ  
た本人にしか味わうことができな  
いのも農業の魅力であろう。農業  
は頑張れば頑張るほどやりがい  
を多く実感でき、それも農業の楽し  
さのひとつであると語ってくれた。  
また、もつとたくさんの若者に農  
業という最高の輝きを共感しても  
らい、一緒に挑戦する仲間を増や  
していきたいとも話してくれた。

## JAの重要さを感じる

高品質生産に向けて病害虫防除、  
「こだわり」栽培など消費者に喜  
んで買ってもらえるためにはどん  
な政策が必要なのか日々奮闘中と  
のこと。就農当時は、主に市場へ  
の出荷から始めたものの、現実  
は予想以上に厳しかったという。市  
場においては様々な旬の野菜が求



瑠菜さんが作るズッシリとした  
白菜。味や見た目への「こだわり」  
が光る。

